

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年4月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4072900295
法人名	社会福祉法人 青寿会
事業所名	グループホーム くろつちの杜
所在地 (電話番号)	福岡県小郡市井上516番1 (電話) 0942-73-1123
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年2月28日

## 【情報提供票より】(平成21年1月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤	16人, 非常勤 1人, 常勤換算 16.2人

### (2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 200,000 円	<input type="checkbox"/> 有りの場合 償却の有無	退去時に必要経費を差し引き返金	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年1月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	1 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山津医院、門司歯科、おか眼科
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人の介護老人福祉施設やケアハウスを母体とするホームである。高速道路のインターに近く、畑や農家の多い地域に立地し、母体と同じ敷地内に小規模多機能型居宅介護事業所と寄り添うように建っている。建物は明るく清潔で、利用者のレベルや状況に応じて法人内の施設の住み替えが可能であり、安心して最期まで過せる所である。利用者はケアハウスやデイサービス利用の友人・知人とも親しく交流し、編み物や調理等の特技を活かしながらゆったりと日々を過している。また、運営者は職員の研修参加や資格取得を支援して資質の向上を図り、サービスの質の向上に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価は運営推進会議にも報告し、全職員で検討を行い、できる事から改善を行っている。家族会を立ち上げ、ホーム運営に家族の意見の反映を図っている。運営推進会議の記録の整備、権利擁護の資料の備え付けを行った。玄関の施錠に関しては、時間を決め職員の把握できる時間帯は解放している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が職員会議で評価の意義などについて説明を行った。自己評価はフロア毎に職員がそれぞれの項目を分担し、日頃のケアを振り返りながら取り組み、管理者が取りまとめを行って作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに定期的開催されている。地域の代表、利用者家族、市や包括支援センター職員、施設職員等が出席し、利用者やホームの状況、行事の説明や案内、外部評価の報告等を行い、話し合いを行っている。地域の行事等の情報提供を受け、利用者と共に参加するように努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	2ヶ月に1回ホーム便りを発行して家族に送付し、行事や日常生活、職員の異動等を伝えている。利用者の状況については家族の訪問時や電話で随時報告を行っている。玄関に苦情ポストを設置したり、家族の訪問時に会話の中から意見を聞き取るようにしている。また、家族会を立ち上げ、家族の意見や提案を運営に反映する取り組みを始めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会には加入していないが、地区の夏祭りに参加し、文化祭には作品を出展して利用者と見学に行っている。地域の廃品回収に利用者や牛乳パックを持って行ったり、職員が早朝の河川敷の清掃活動に参加したり、地区の老人会の新年会に関連施設の職員と共に演芸を披露し、地域の人々と交流している。また、地域の花火大会には施設敷地を駐車場として開放している。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念に沿って、ホーム設立時に職員皆で作上げた「誓い」を理念としている。「ひとりひとりの人間性を大切に、その人らしく安らかに生活できるよう、できることは行動に移せるよう支援する」という3カ条を掲げている。しかし、地域の中でその人らしく暮らし続けるという地域密着の理念が見えない。	○	住み慣れた地域の中でその人らしく暮らし続けるという、地域密着の「ホーム独自の理念」を職員全員で検討することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「誓い」は玄関と廊下の目に付くところに掲げられている。毎月の職員会議で法人の理念と誓いを職員全員で唱和し、支援について話し合い共有している。職員は日常生活の中で、人間性を大切にその人らしい暮らしができるよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の夏祭りに参加し、文化祭には作品を出展して利用者と見学に行っている。地域の廃品回収に利用者と牛乳パックを持って行ったり、職員は早朝の清掃活動に参加したり、地区の老人会の新年会に関連施設の職員と共に演芸を披露したり、地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が職員会議で評価の説明を行い、職員はその意義を理解している。自己評価はフロア毎に各職員が分担して記入後、管理者がひとつにまとめた。前回の評価は運営推進会議で報告を行い、家族会を設置して運営推進会議や権利擁護、施設等の見直し改善を行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度定期的で開催されている。地域代表、利用者家族、市や包括支援センター職員、ホーム職員等が参加し、利用者やホームの状況、行事、外部評価等の報告を行い、話し合いがなされている。しかし、会議には利用者の出席がなく、ホーム行事への地域参加など具体的なサービス向上につながっていない。	○	運営推進会議には利用者も参加し、ホームの運営や行事に地域や関係者の協力がいただけるよう積極的な働きかけが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者や職員は市の主催する各種の研究会に参加し、週に1回程度は市役所に出向いている。たよりの配布、入居希望者の把握、見学の受け入れ等について市や包括支援センターの職員と情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	権利擁護に関する外部研修に参加してホーム内で報告研修を行い、必要時には職員が情報提供できるよう学習している。関係機関のパンフレットを準備し、家族会にも説明を行った。現在1名の利用者が申請中であり、裁判所の面接調査にも立ち会い支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを2ヶ月に1回発行して家族に送付し、行事や日常生活、職員の異動等を伝えている。利用者の状況については家族の訪問時や電話で随時報告を行っている。金銭管理については一人ひとりの出納帳に記録し、家族の訪問時に領収書と照合して承認の印鑑をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情ポストを設置したり、家族の訪問時に会話の中から意見を聞き取るようにしている。貴重な意見が寄せられ、接遇改善等に活かしている。また、家族会を立ち上げ、家族の意見や提案を運営に反映する取り組みを始めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から意見の言い易い職場環境づくりに取り組んでいる。管理者や主任が職員の意見や悩みを聞き取り、余暇活動や長期休暇制度などを取り入れ、離職者を最小限にする取り組みを行っている。職員の異動や離職時には利用者と茶話会を開いて挨拶し、家族にもホーム便りで報告したり挨拶を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用には性別や年齢の排除はしていない。職員の希望を取り入れて勤務シフトを組み、休みの交替も柔軟に対応している。また、3年以上勤務した職員には長期休暇が取れるしくみがあり、意見の出しやすい働きやすい職場環境作りを行っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	一人ひとりの人間性を大切にする理念を掲げており、職員会議等で常に接遇等について話し合っている。管理者が差別や同和問題などの外部研修に参加し、ホーム内で報告を行い啓発に努めている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人事業所で毎月行われている作業療法士による勉強会に参加することができる。職員には積極的に研修参加を勧め、資格取得の研修等にも休暇に配慮し支援している。職員は研修に公務扱いで参加し、職員会議やミニ研修で研修報告を行い資質向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの部会に加入し、地域のホームの音楽会等で交流を行っている。しかし、勉強会やホームの相互訪問等は行われておらず、交流の機会は少ない。	○	地域のネットワークを利用して、研修会参加や他事業所との相互訪問等を通じて交流し、サービスの向上を図る取り組みが望まれる。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず自宅や病院を訪問して本人や家族から話を聞いている。家族と共に見学に来てもらったり、希望者には日帰りや泊りの体験入居をしてもらっている。入居には家族と相談して馴染みの家具を居室に運び込んだり、他の利用者とのコミュニケーションが取れるよう職員が声かけを行い、常に支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には人生の先輩として、また家族のように接している。職員は昔からの風習や季節の行事、料理の味付けや着物の着付けなどを教わったり、利用者話を聞いてもらったり、励ましやねぎらいの言葉を掛けてもらったりしている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介護の中で思いや意向を把握するよう取り組んでいる。特に、入浴介助をする時や夜間眠れずに起きてこられた時は、チャンスと捉え、思いや意向を聴きだすよう努めている。明確な意思表示ができない利用者には、行動や表情から思いを汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向と総合的な援助の方針・目標・内容の関連性が薄く、思いや意向が反映された計画とはなっていない。また、全ての利用者や家族に分かりやすく説明したり、一緒に話し合って作成しているとは言いがたい。	○	利用者一人ひとりが地域の中で安心して暮らせるよう、今一度介護計画作成について検討して欲しい。意向については、利用者や家族が発した言葉をありのままに記入することで、より思いや意向が見えてくることもある。利用者や家族の要望、現場の職員の意見や気づきを反映した個別の介護計画となるよう取り組まれない。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の職員会議ですべての利用者について検討し、3ヶ月毎に見直しをしているが、期限が切れたままの介護計画となっている。書類が後回しになっており、現状に即した介護計画を作成しているとは言いがたい。	○	設定した期間に応じて、目標の達成状況について話し合い、評価、見直すことが重要である。また、期間内であっても状態が変化した場合は随時話し合い、現状に即した介護計画となるよう取り組むことが望まれる。



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「私の夢」として利用者の願いや行ってみたい所を聞きだす取り組みをしている。「お寺参りがしたい」「親戚の家に行きたい」等の利用者の願いを叶えるため、介助のため職員も家族の運転する車に同乗し、出かけた。事前に計画を立て職員の勤務を調整し、特別な外出を支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ病院へ受診する利用者もいるが、医師である理事長の往診を受けられる事で、大半の利用者は希望して医療機関を変更している。契約時に歯科・皮膚科・泌尿器科・眼科等の協力医療機関の紹介を行い、適切な医療が受けられる体制ができています。受診結果はその日の内に家族へ報告し、家族からも情報を得ている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、入院あるいは敷地内の他の施設への住み替えが可能であることを本人や家族に説明し、安心していただいている。主治医と連携を図りながら、本人や家族が希望すれば看取りまで支援するしくみがある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	態度や言葉使いについては、プライドを傷つけないよう常に意識して日々の介護に当たっている。個人の書類は鍵のかかる書棚に保管し、来訪者の目に触れないようにしている。個人情報保護の観点から職員採用時に同意書を取り交わし、指導の徹底を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の日課を優先するのではなく、利用者のその日の体調や気分を尊重した支援を心がけている。何もせずに座りっぱなしになりがちな利用者に対しては、職員が常に声をかけて話題を提供し、日々豊かな暮らしになるように支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者には野菜の皮むきや味見、盛り付けなどできる範囲で参加してもらい、味付けをお願いすることも多く、食事がより楽しいものとなっている。また、咀嚼や嚥下状態に応じて、刻みやミキサー食にも対応している。おかずも最初から刻むのではなく、本人の意向を確認してから行っている。時々回転寿司やてんぷらなどの外食に出かけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間に入浴したこともあったが、今は午後2時から5時ころまでに入浴している。入浴が楽しい時間になるようゆず湯にしたり入浴剤を入れたりしている。入浴が億劫で入らない方にはフットバスの足浴を行っている。週に2回は入浴することを目標に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の得意な利用者が「おつけだご」の麺打ちから披露し、利用者の皆さんに食べてもらった。廊下の壁に作り方を写真を交えて紹介している。折り紙や編み物、生け花等一人ひとりの趣味や特技を活かした出番や役割作りに取り組んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	昼食やおやつを食材を買いに利用者と一緒に出かけている。またフロアごとに月に1回は外出に出かけている。認知症の進行に伴い外出の機会も減ってきており、週2～3回は外出しているが、日常的に外出しているとはいえない。	○	身体的に外出が困難な方や進んで外出されない方についても、積極的に戸外に誘い季節を感じてもらえるよう取り組んで欲しい。五感を刺激し、生きる喜びや楽しみを感じてもらえるよう日光浴や庭でのおやつタイムなど、工夫を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の外部評価を受け、1階の玄関は11時から2時間は開錠している。食堂や居室からは自由に庭へ出ることができるが、日中いつでも外出できる環境ではない。2階については、玄関は終日施錠されている。	○	安全面の兼ね合いはあるが、少しずつ開錠する時間を伸ばしていく等の取り組みを期待したい。特に2階については最初から危険と判断するのではなく、何かよい方法はないか利用者や家族、地域の方々の意見を参考にしながら利用者本位に検討することが望まれる。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で年2、3回、昼と夜間を想定した避難訓練を行っている。消防署の指導を受け、事務室に災害時マニュアルや連絡網を掲示し、日頃から隣家にも協力を依頼している。しかし、この1年は火元がホーム以外であったため職員は応援の形の参加に止まり、ホーム独自の訓練にはなっていない。	○	法人全体の避難訓練に参加し、更にホーム独自の避難訓練を実施することが望ましい。緊急時に慌てず確実な避難誘導ができるように具体的な避難場所や誘導方法を繰り返し訓練することが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が作成した献立に沿って朝食と夕食は提供されており、バランスの取れた内容になっている。コーヒーやココア、緑茶等を準備し、水分不足にならないよう取り組んでいる。不足しがちな利用者にはチェック表に摂取量を記録し、健康管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に習字の得意な利用者の作品である「くろつちの杜」と書かれた墨字の表札を掲げている。廊下には利用者一人ひとりの似顔絵を飾ったり、小学校から譲り受けた机と椅子を置いて休んだり話ができるよう工夫している。大きな窓には優雅なバルーンカーテンをかけ、日差しを調整している。また、手作りの布製カレンダーや季節の生け花を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や使い慣れたタンスなどが置かれている。壁には家族の写真や手作りの作品などが飾られ、思い思いの居室になっている。居室の入り口には手作りの暖簾をかけ、名前と写真、フェルトで作った干支が飾られている。また毎日、朝食時は居室の窓を開けて換気をする等、気持ちよく過ごせるよう工夫している。		